

# 支援のポイント

## 二次的な障害を起こさないために



LD・ADHD・高機能自閉症等の状態を示す児童生徒が、いじめの対象となったり、不登校になる場合があり、それが二次的な障害を引き起こしているとの指摘もあります。

### 授業の中で

#### 単元や活動のねらいの明確化を

- ・授業の流れや取り組んでほしいことをあらかじめ伝えるなどの工夫をしましょう。
- ・指示をするときは具体的に、短くしましょう。

#### 板書や書くときの配慮を

- ・板書は量を少なくし、色や文字の大きさを工夫しましょう。
- ・量や内容、枠の大きさ等を配慮したワークシートを作成しましょう。

#### 児童生徒の実態に応じた課題の設定を

- ・課題を少なめに区切ってみましょう。
- ・がんばったところがわかるようにしましょう。

#### 視覚的情報の活用を

- ・カードや写真などを活用し、見て理解できる工夫をしましょう。

#### 個別の指導の機会を

- ・支援体制を工夫し、個別の指導の場を設けるなど、失敗させない工夫や成功した経験を積み上げる工夫をしましょう。



### 教室環境の工夫

#### 座席位置の工夫を

- ・児童生徒の特性に応じて、教師の近くや窓から離れた前方の席にするなど、座席の位置に配慮しましょう。

#### 環境の調整を

- ・特に前方の掲示物はシンプルに、気が散りそうな物はできるだけ視野に入らないようにしましょう。
- ・1日の見通しがはっきりとわかるよう、今日の予定ボード等を活用しましょう。
- ・棚や箱等を利用して、持ち物が整理整頓しやすいようにしましょう。

### 本人に対して

#### 特性を生かし、存在感をもたせる工夫を

- ・関心の強いものや特定の知識などがある場合は、それを生かして、学習や学級経営に活用しましょう。

#### 自信が持てる配慮を

- ・うまくできたことはしっかりほめ、自信ややる気が持てるように関わり方に配慮しましょう。

#### ルールや指示を明確に

- ・指示は短く、できるだけ具体的にしましょう。
- ・急な変更がある場合は、できるだけ見通しが持ちやすいよう予告をするなど配慮しましょう。

#### 友だちとの関わり方を学ばせる配慮を

- ・友だちとどのように関わるのがよいかや、相手の立場を考えられるような具体的な方法を、学ばせるようにしましょう。

### 学級の子どもたちに対して

#### 友だちのよさを認め合う

#### 学級づくりを

- ・みんなが得意なことや不得意なことがあることを理解し、認め、助け合う雰囲気をつくりましょう。



#### 教師が関わり方の手本を

- ・教師の本人への声かけや関わり方を通して、児童生徒に手本を示しましょう。

### 保護者に対して

#### 情報の共有を

- ・学校や家庭での様子を、できるだけ具体的に伝え合う関係を大切にしましょう。

#### 一緒に考える姿勢を

- ・すぐに結論を出そうとするのではなく、保護者と一緒に考える姿勢を大切にしましょう。

#### 関係機関等の情報提供を

- ・地域の関係機関等の情報を収集し、必要に応じて、提供できるようにしましょう。